

講義・演習「学習プログラム開発の実際Ⅱ」

ねらい:

- 学習プログラムをリデザイン(改善)することができる。
- 学習プログラムの評価について理解し, 評価項目をつくることができる。



①学習プログラムの リデザイン（改善）

「シートB」のリデザインに入る前に・・・

地域課題の設定

シートA

個人の要望

- ・地域の史跡について学びたい
- ・地域の人と交流したい
- ・地域の活動に参加したい

社会の要請

- ・地域資源を活用した学習の推進
- ・高齢者と若者の世代間交流の促進
- ・高齢者が生きがいをもてる高齢社会の構築

2つをバランスよく組み合わせて、地域課題を設定

地域課題

- 地域にある資源を学ぶ機会が少ない。
- 高齢者と若い世代の住民を結ぶ交流の機会が少ない。
- 一人暮らしの男性高齢者が多いことから、高齢者の孤立化防止のための生きがいや活躍の場の提供が必要である。

学習プログラム「シートB」

1 学習目的

シートB

高齢者が、地域への関心や理解を高めるとともに、地域への愛着を深め、生きがいをもって地域で活躍できるきっかけづくりを図る。

学習プログラムチェックシート



1 地域課題に答える「目的」「目標」になっているか？

(地域課題解決の方向性を示す) ※理念的なものでよい

どのような課題を、どのような状態にするのか？

地域課題を

こうなってほしいという理想的な状態を考えてみる。

2 学習目標

シートB

1 地域課題に応える「目的」「目標」になっているか？

A 知らないことを知るようになること **ウを必ず**

I できないことができるようになること **1つ入れ**

ウ 意識を変えること **2つ以上設定**

*** 生涯学習・社会教育の場合は、ウが重要**

2 学習者を主体にした具体的でわかりやすい言葉で目標が示されているか？

「誰が」(学習者)「何について」(学習内容), 「どのように」(学習方法) 学習するのかを明確に。

4 学習者にとって魅力的な内容になっているか？

3 プログラム名

シートB

8 プログラム名は、人を惹き付けて、内容が分かるものであるか？

短い言葉で、どんなことをするのか分かるものにする。

4 対象・定員

3 対象者の範囲や人数が適切に設定されているか？

5 参加費

⑦ 会場や場所，回数や日程，経費や参加費は 適切に設定されているか？

あわせて，参加者の準備物，主催者の準備物も明確にしておく。

6 事前に必要な知識や準備物

7 留意点

8 学習プログラムの展開 その1

シートB

回・日程	学習のテーマ	各回の学習目標(◎) 学習内容 (・)	学習 支援者	学習 場所	評価 (振り返り の方法)



⑦ 会場や場所，回数や日程，経費や参加費は
適切に設定されているか？

8 学習プログラムの展開 その2

シートB

回・日程	学習のテーマ	各回の学習目標(◎) 学習内容 (・)	学習 支援者	学習 場所	評価 (振り返り の方法)



4 学習者にとって魅力的な内容になっているか？

5 プログラムの順序やつながりは適切か？

各回の学習活動に連続性をもたせ、起承転結を意識する。

11 ネットワークづくりの視点がプログラムにあるか？

参加者間の相互交流、相互作用を促す工夫をする。

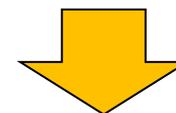
12 学習成果を活用する機会や、次の活動へとつなげる工夫がされているか？

活動の継続と発展、学びが広がる(周囲の人へ、生活の中へ)工夫をする。

8 学習プログラムの展開 その3

シートB

回・日程	学習のテーマ	各回の学習目標(◎) 学習内容 (・)	学習 支援者	学習 場所	評価 (振り返り の方法)



- 過去の学習活動の成果や地域の人材などを活用する工夫がなされているか？
- 会場や場所，回数や日程，経費や参加費は適切に設定されているか？
- 目標にあった評価方法が選択されているか？
- 参加者の振り返りを促す工夫がされているか？

参加者自身による学習成果の確認を大切にする。

「シートB」修正・改善案の記入例

3 プログラム名

シニアのまちたんけん

<気づいたこと・改善提案等>

○プログラム名だけでは、対象が分かりにくい。

チェックポイント  8

4 対象・定員

誰でも自由 高齢者

定員

100名

<気づいたこと・改善提案等>

○高齢者が対象なのに明確にしめされていない。

チェックポイント  3

- ◆修正・改善案を赤ペンで記入
- ◆その理由や気づいたことなども併せて記入

グループワーク

◆グループワーク（75分）

- 事前課題で各自が作成してきた改善案を出し合う。
- 赤ペンで修正する。
- その修正内容について改善したポイントについて記入する。

注意!! 評価の欄はやらない



◆全体で発表（35分）

- 各項目についてのグループで考えた改善案等を各グループ2～3項目くらい発表する。

学習プログラム（見本）の紹介

- 地域課題をとらえる
- 主体的な活動につなげる
- 高齢者が地域に参加するきっかけづくりを図る
- 学んだことの還元と交流の場づくり



60分間の**お昼休憩**に入ります



午後から

シートD

の作成に入っていく

②学習プログラムの 評価の手法

評価と振り返りアンケートの作成

学習プログラムを評価する意義

【計画の評価】

- PDCAサイクルの最終ステップ(事業の改善・充実)
- 次年度計画の説明根拠となる資料
- 長期的な見通しのなかでの事業運営
(人材育成, 地域づくりなどは短期事業で達成しづらい)

【学習成果の評価】

- **学習者自身が**, 達成感・充実感を確認する・意識づける=**「振り返り」の教育的な意義**

学習成果を「見える化」する活動
「次へつなげるための」活動

「評価」振り返りの方法

- ①「振り返りアンケート」の結果
- ②参加者の実態(具体的に)
- ③感想文
- ④一部の受講者への聞き取り
- ⑤学習活動の観察(具体的に ~の様子をみる
~協力し合っている・・・etc)
- ⑥会場での発言, 質問, 拍手, 挙手などの反応
- ⑦学習成果物(ワークシートや作品)
- ⑧学習活動の記録

「振り返りアンケート」の問題点

- アンケートの回収率の低さ
- コメント(自由記述の少なさ)
- アンケートに対する学習者の理解, 記述力の差異が反映しやすい(答えにくさがある)
 - * 項目としては3~5コが限度
 - * 記述式より選択式が答えやすい
 - * すべての年齢層に紙面によるアンケート方式は適用できない(高齢者・子供)

個人ワーク①

「評価」振り返りの方法

- ①参加者の具体的な様子がわかる内容とする。
- ②活動の記録・成果物・発言・挙手の反応など。

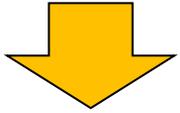
個人ワーク②

「振り返りアンケート」項目3つ作成 → シートD

- ①学習計画者として確認したい項目  9
- ②学習者が学習を振り返るための項目  10
- ③次回以降の学習プログラム開発のヒントとなるような項目

個人・グループワーク

- ◆ 評価する回を**グループ**内で決定**(3分)**



- ◆ **個人**ワーク**(10分)**

評価方法とアンケート項目の作成



- ◆ **グループ**ワーク**(40分)**

評価方法とアンケート項目の作成・意見交流



- ◆ **全体**で発表**(15分)**



他市町の参考事例

事業の最後に10分でもいいので、スタッフどうしのミーティングの時間を設け、情報収集を行う。

なるべく一人きりで事業を切り盛りしないよう心がける（協力体制の整備）。

後日でも参加者から指摘された問題点は、担当者に伝えあう。
（伝えてもらえるような職場での人間関係づくりが大事）

高齢者・子供を対象とした振り返りアンケートの回収方法には工夫をする。

学習活動の様子や学習成果を館内に掲示することで、学習者から感想や意見を集める。

まとめ

- 学習プログラム開発における評価活動の重要性
 - * 2つの視点(学習プログラムの評価と学習成果の評価)からの評価計画
 - * 学習者の学習支援となる「振り返りアンケート」の重要性
- 「評価」「振り返りアンケート」の作成手順
 - * 実態把握, 目標達成度, 次の学習につながる成果の確認(次の学習計画の参考になる情報)
 - * 「振り返りアンケート」に頼りすぎないために, 必要な成果を自分たちで収集する評価計画の重要性

参考資料

平成22・23年度生涯学習振興・社会教育関係職員等研修初級研修資料
(広島修道大学教授 山川肖美, 広島経済大学教授 志々田まなみ)

平成25・26・27年度生涯学習振興・社会教育関係職員等研修「学習プログラム研修」
資料 (広島県立生涯学習センター生涯教育推進マネージャー 志々田まなみ)

社会教育法第32条 (公民館の)運営の状況に関する評価等

社会教育法第32条の2 (公民館の)運営の状況に関する情報の提供

図書館法第7条の3 運営の状況に関する評価等

図書館法第7条の4 運営の状況に関する情報の提供

博物館法第9条 運営の状況に関する評価等

博物館法第9条の2 運営の状況に関する情報の提供

『生涯学習〔自己点検・評価〕ハンドブック』 井内慶次郎 監修

『生涯学習概論ハンドブック』 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

『評価ブックひろしま』 広島県立生涯学習センター

[生涯学習研究e事典](#) 事業評価の技法 原義彦

ぱれっとひろしま

検索

